

2025_夏号のトピックス

今年は、入学式の時期でも桜の開花が楽しめ、過ごしやすい春でしたが、最近は汗ばむ陽気も増え、例年通りの猛暑が来るのではと感じています。日々の体調管理を怠らず、今年の夏も乗り越えたいと思っています。

さて、西技環境ニュース 2025_夏号では、下記トピックスをご紹介します。

- ✓ 九州で繁殖する猛禽類
- ✓ 環境部の主な業務内容（2025 年度）
- ✓ 昆虫食 番外編（エネルギー問題懇談会での話題提供）



花火の季節が待ち遠しいです

九州で繁殖する猛禽類

環境省猛禽類保護センターHPによると、猛禽類とは「獲物を捕らえるために、その体を進化させた鳥の仲間」とされています。他の動物を捕食することから、生態系の上位に位置する種が多く、猛禽類が生息し、繁殖できる環境は、餌となる動物が多く生息できる自然豊かな環境であるといえます。

今回は、九州の自然豊かな環境で繁殖する主な猛禽類を紹介します。

【クマタカ】

一年中、九州を含む日本各地に生息しています。

トビよりも大きく、九州で繁殖する猛禽類の中では最大級の大きさを誇ります。

低山帯から亜高山帯の森林にある大きな木に営巣し、哺乳類、鳥類、爬虫類など、小型から大型まで様々な獲物を捕食することから、自然が豊かで餌となる動物が豊富な発達した森林でよくみられます。



森林生態系の頂点に君臨、「森の王者」とも呼ばれる

【サシバ】

春に九州を含む日本各地に渡来して繁殖し、秋には越冬地の東南アジアなどへ渡ります。

大きさはカラスくらいで、平地から山地の林などに生息し、主に爬虫類、両生類、昆虫類を捕食します。

餌となるヘビやカエル及びバッタなどの昆虫類が多く生息する水田周辺の里山環境や山地の林でよくみられる種です。



ビッキ〜という特徴的な鳴き声で鳴く

【ノスリ】

九州には、越冬のために渡来する個体と、一年中生息し繁殖も行う個体がいいます。

九州での繁殖地は主に大分県や熊本県の高原の森林などで、熊本県の阿蘇が南限です。

カラスくらいの大きさで、主な餌は高原に生息するネズミですが、そのほか両生類、爬虫類、鳥類、昆虫類も捕食します。



すんぐりとした体形が特徴

【ハヤブサ】

一年中、九州を含む日本各地に生息し、カラスくらいの大きさです。

平地から山地にかけての多様な環境に生息し、崖など自然地形のほか、工場の煙突や高層ビルなどの人工構造物でも営巣します。

主な獲物は鳥類で、急降下して獲物を足で蹴落とし、捕獲します。



急降下の速度は300km/hを超えるとも言われる

【ミサゴ】

一年中、九州を含む日本各地に生息し、トビくらいの大きさです。

海岸の岩の上、河川の崖、山林の大木などで営巣し、主に魚類を捕食することから、海辺や河川、湖沼、ダム湖など水辺の近くでよくみられます。



垂直離着機オスプレイはミサゴを意味する

【フクロウ】

一年中、九州を含む日本各地に生息し、カラスくらいの大きさです。

平地から山林の林や、林に隣接した農耕地などに生息し、大径木の「うろ」などに営巣します。

夜のハンターで、ネズミなどの小型哺乳類や小鳥などを捕食します。



獲物に気づかれないよう羽音を出さずに飛翔する

街中でよく見かける猛禽類であるトビの他にも、少し足を延ばせば、多様な環境で様々な猛禽類が繁殖しており、猛禽類を育む九州の豊かな自然を実感できます。機会があれば、ぜひ猛禽類ウォッチングに挑戦してみてください。

本記事は、鳥類を専門とする山崎（やまさき）が担当しました。

街中でよく見かける猛禽類、トビ



環境部の主な業務内容(2025 年度)

2025.5 時点での主な業務内容は、以下のとおりとなっています。

官公庁事業関連(国内)		官公庁事業関連(国外)	
国交省	遠賀川水系自然再生事業モニタリング調査業務 遠賀川水系水辺現地調査(河川環境基図)業務 六角川・牛津川湛水池モニタリング調査外業務 緑川ダム水辺現地調査(底生動物等)業務 緑川ダム水辺現地調査(植物調査・環境基図等)業務 緑川ダム・鶴田ダムフォローアップ評価検討業務 川辺川流域情報活用検討業務 環境調査(陸上昆虫類外)標本保管管理 山国川水系河川水辺の国勢調査(両生類・爬虫類・哺乳類)業務 五ヶ瀬川河川水辺の国勢調査(魚類)業務 大淀川・小丸川河川水辺環境調査(鳥類・両爬虫)業務 宮崎海岸モニタリング環境調査・分析検討業務	JICA	ケニア国地熱発電事業における蒸気供給管理能力向上プロジェクト ケニア国オルカリアV地熱発電開発事業実施促進支援業務 インドネシア国国有地熱発電事業者の新規開発地点に関する情報収集・確認調査 ジブチ国地熱開発試掘プロジェクト掘削監理
		PT.PLN	インドネシア国ウルンブ・マタロコ地熱発電プロジェクト業務
		民間事業関連	
		環境調査 予測評価 対策検討	ダム水質や通砂事業に伴う環境調査・解析、魚類遡上調査、地下水分析検討、発電所工事に伴う騒音予測、植物調査 など
福岡県	国道322号香春大任バイパス水文調査業務委託 那珂川魚類調査業務委託	環境 影響 評価	洋上・陸上風力発電所新設に係る環境影響評価、火力発電所リブレースに係る環境影響評価、火力発電所建設に係る植物保全業務 など
			送電線工事に伴う希少植物調査、地熱開発に係る動植物調査 など
佐賀県	六角川水系本川圏域河川調査委託(河川整備計画)	自主	

昆虫食 番外編(エネルギー問題懇談会での話題提供)

西技環境ニュースでは、過去2回(2020年春号、2023年夏号)にわたり昆虫食に関する情報をお届けしてきましたが、今回は紙面を飛び出し、九州電力(株)OBを中心としたエネルギー問題に関する勉強会(エネルギー問題懇談会)にて、昆虫食体験記を発表しました。

今回は、発表に至るまでの経緯や当日の状況についてご紹介します。

【発表に至った経緯】

エネルギー問題懇談会は、エネルギー問題に関する勉強会を通じて九州電力(株)のPA活動(Public Acceptance: 広報活動)に自発的に協力するとともに、会員相互の連携と親睦を図ることを目的として運営されています。

西技の社員も役員を中心に会員として名を連ねており、そのご縁から環境部に声かけいただき、去る4月16日に電気ビル会議室で開催された懇談会において、昆虫食に関する話題提供を行う運びとなりました。

【昆虫食と食料問題】

国連の世界人口推計によると、2050年には97億人に達すると予測されています。国連は、この人口爆発によって深刻化する食糧問題に対し、世界の食料危機を克服する有効な手段の一つとして「昆虫食」を挙げています。昆虫が将来の食糧資源として注目を集めているのは、その栄養価が高く、バランスにも優れているためです。

当日は、まず食糧問題を解決する手段として、昆虫食の有効性について紹介しました。

【新たな昆虫食チャレンジ】

また、過去2回の環境ニュースで取り上げた昆虫食体験記以外に、以下に示す『その後に食した美味しなかった体験記』についても話題提供しました。

▼マツヘリカメムシ

マツを加害する外来種で、一般的なカメムシとは異なり、アオリンゴの香りがします。

アオリンゴの味を期待して茹でて食べてみましたが、無味無臭で、決して美味しくありませんでした。



▼クビキリギス(キリギリスの仲間)

以前食べたイナゴの佃煮の中に、何を間違えたのかクビキリギスが混じっていました。異物混入案件!ですが、興味の方が勝り、製造元に抗議することなく食べてみました。

ところが、草をそのまま食べているような味で美味しくなく、昔の人は、美味しい虫(イナゴ)を見極めて食材にしていることに感心しました。



試食した昆虫食

【質疑応答と昆虫食試食会】

質疑応答では、昆虫食の日本における市場規模拡大の可能性などが話題となりました。日本では、その見た目から抵抗感が強く、市場規模の拡大は容易ではないかもしれませんが、今後のエネルギーや食糧情勢によっては、食卓に並ぶ日が来る可能性も否定できません。

質疑応答の後には、市販されているセミ、イナゴ、オケラなどの試食会も行い、勇気のある方々に昆虫食を試していただきました。



環境ニュースでご好評いただいた昆虫食の話題が、西技環境部を飛び出し、こうして多くの方にご紹介できる機会を得られたことは、感慨深い限りです。

本記事はもちろん、実際に昆虫食を体験し、エネルギー問題懇談会で話題提供を務めた平田(ひらた)が担当しました。